

ペッパー

ケイジャンベル/キュートスタッフレッド/スイートヒート

学名: *Capsicum annuum*

種子粒数の目安: 155 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また初期の養分は中庸(EC、0.75mmhos/cm)とする

播種

288 穴あるいはそれよりも大きなサイズのトレイを用いる。粗めのバーミキュライト等で軽く覆土する

ステージ 1 - 発芽には 5 から 7 日要する

地温: 22-24°C が適正

光条件: 条件としてはあった方がよい

水分: ステージ 1 では、水分レベルをややウェット(level 4)に維持

湿度: 幼根が発生する頃までは相対湿度を 95%+ で維持する

※ ペッパー(トウガラシ)類は高塩類、とくにアンモニウム塩に敏感なので、アンモアのレベルを 10ppm 以下に抑える

ステージ 2

地温: 21-24°C が適正

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルを下げ、中(level 3)からややウェット(level 4)な状態で、水やりの直前に少し乾くようにして、発芽や根にとって最適な条件を提供する

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC を 0.7mS/cm 以下)の濃度で、リン酸の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 18 から 21°C が最適条件

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: かん水の間に培地の表面が明るい茶色に乾くような、少し乾燥した状態(level 2)を維持する。こうして、脇芽を抑制させながら、根の生育を促す。状況を見ながら、level 2 から level 4 の範囲でドライとウェットを繰り返しながら管理を続ける

肥料: 濃度をレート 2(100-175ppm (N)、EC 値 0.7-1.2mS/cm)に上げ、14-0-14 あるいは他の硝酸カルシウム/硝酸カリウムの肥料を与える。かん水 2、3 回に一度肥料を与える。培地は、pH を 5.8 から 6.2、また EC を 1.0-1.5mS/cm(2:1)の範囲で維持する

矮化剤: 矮化剤は不要

ステージ 4

温度: 17-19°C が最適条件

光条件: 温度条件が管理できるのであれば、53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ 3 と同様

肥料: 14-0-14、15-0-15 あるいは硝酸カルシウム/硝酸カリウム系の肥料を、適宜レート 2(100 から 175ppm (N)、EC 値 0.7-1.2mS/cm)で与える

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

10-11cm: 1 プラグ移植/ポット

用土

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、また初期養分は中庸(EC、0.75mmhos/cm)とする

温度

昼間温度: 20-26°C

夜間温度: 18-21°C

※ ペッパーは温かい条件を好む植物である。7°C 以下では、障害が現れることがある

照度

できるだけ高い照度を維持する

かん水

株は乾かしながら育てる。丈の余分な伸長を抑えるためには、根が鉢の内側に接するようになってから、水やり前に枯れる寸前に乾いた状態にしておく

肥料

レート 3(175 から 225ppm(N)、EC は 1.2-1.5mS/cm)の肥料を、かん水 3 回に一度与える。リン酸分が少なくカリウムの多い、硝酸態の肥料を主体として用いる。pH は 5.8 から 6.2 とする

※ レート 2(100-175ppm (N)、EC 値 0.7-1.2mS/cm)の肥料で頻度を上げる方法も可能である

PGR(矮化剤)

高い照度とスペーシングがとられていれば株は徒長しない

ピンチ

ピンチは不要である

スペーシング

葉と葉が接触しはじめたら株間のスペースをとる

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 5 から 6 週

移植から販売適期まで: 4 から 7 週

播種から販売適期まで: だいたい 16 週

(グリーンの実がつくまで)

病例等

害虫: アブラムシ要注意

病気: とくに大きな症例は確認されていない

植え付けする際のポイント

- 定植は日あたりのよい場所に、降霜の時期を過ぎた後におこなう
- 定植時の株間は 35 から 45cm。水はけのよい土に植えつける
- ケイジャンベルは、根が活着した後、乾燥にとっても強い品種です
- 草丈は 36 から 40cm ほど

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう